福岡北R.C.創立10周年記念事業について

記念事業委員長　本田　悳

「ひとを育てる」

「樹を育てるより、人を育てよう。」

当、福岡北ロータリークラブ発足時の平野桂樹特別代表のお言葉です。

新クラブの結成記念事業として何を？。いろいろ検討されました。記念植樹も有力案の一つでした。昭和44年に開設された「油山市民の森」も整備途上にあり、「天神緑地」も大きな話題の一つになっていた頃です。若木を植樹し、この若木が、根をはり、枝をのばし、葉を繁らせるように、新しいクラブも成長していこう。確かに、新クラブの発足にふさわしい記念事業であるといえましょう。地球の環境保全もとりざたされ始めた時代です。時宜を得た、話題に富む事業には違いありません。しかし、「何十本、何百本もの木を育てることは、本当に立派なことであろう。だが、何人かの子供が健やかに育つことは、もっともっと大きな社会の財産になるのではなかろうか」「子供達が健やかに育ち、社会のため、人のために役立つ成人になれば、これに優る成果はない。地球に優しい１人の人間が育つことは、何万本の植樹にも優る、地球への優しさになるでしょう」「樹を育てるより、人を育てよう」

平野特別代表のこの熱い思いが、日本ボーイスカウト福岡第14団の発足と育成につながったのです。当時のカブ隊の坊やは、今は立派な大学生、社会人として巣立ってまいりました。

当クラブには新家忠男ＰＧもおられます。ご承知のように、新家ＰＧは、ガバナー時代に旧270地区に、初めてＲＹＬＡを創設されたロータリアンです。

本クラブは、このお二人を核に発足した、手造りクラブなのです。本クラブの底流には「ひとを育てる」ことへの意欲と努力が、滔々と流れているのです。

創立10周年記念事業としても、当然のことながら、ボーイスカウト福岡第14団の育成援助をと考え、御希望に沿ったお役に立つものとして「野外活動用テント一式」を贈りました。また、難病と闘う子供達のＱＯＬの向上と、１日も早い快復を願って、福岡市立こども病院に「こどものビデオライブラリー」を寄贈致しました。加えて、若人の健全育成を目的とした継続的事業として、創立10周年を契機に、育成基金の創設を検討することになりました。

「ひとを育てる」ためには、自分自身が育っていなくてはなりません。現在の私共自身は、育った人とはいえないかもしれません。ひとを育てることで、自分も育たなくてはなりません。こうした意味でも、北ロータリークラブは「ひとを育てていくクラブ」であり続けたいと念じています。